



報道関係者各位

## 芸術作品の「対話型鑑賞」を授業に応用 京都芸術大学との連携プログラムを2小学校で実証実施

茨木市教育委員会では、学校法人瓜生山学園京都芸術大学と連携し、美術作品等の「対話型鑑賞」の方法論を学校授業に応用したプログラムを、市内2小学校の5年生を対象に実証的に実施しています。

本市教育委員会では、「一人も見捨てへん教育」の実現をめざし、教育委員会と学校が一体となった取組みを進めています。令和2年度に策定した第5次プラン「茨木っ子プランネクスト 5.0」では、茨木の子どもたちが、変化が激しく予測困難な社会を生きぬくため、新たなことを創造する、他者と協働して取り組む、困難にくじけず乗り越えるなど、テストでは測ることができない非認知能力（茨木っ子力）を育成することを重点の一つとしています。

「対話型鑑賞」とは、一つの作品を題材に「みる・考える・話す・聴く」を繰り返すことで、論理的な思考力やコミュニケーション能力を養う方法であり、これを学校の授業に応用した「対話型鑑賞プログラム」は、めざす非認知能力の育成に資するものと期待しています。

初回のプログラムは、5月9日（西小）、11日（畑田小）に行われ、ゴッホの「ひまわり」を題材に、15本のひまわりの中から、各児童が今の自分に例えられる1本を選び、そう思った理由を発表し合いました。

なお、本市と学校法人瓜生山学園京都芸術大学とは、令和4年5月25日（水）に、連携協力に関する協定を締結する予定であり、本件はその連携事業の一環として実施しているものです。



初回の様子

### ■プログラムの概要

対象校：茨木市立西小学校（茨木市北春日丘三丁目12-23）、畑田小学校（茨木市畑田町3-31）

期 間：1学期中（5月～7月） ※全7回を予定

講 師：京都芸術大学アート・コミュニケーション研究センター 春日美由紀 氏

内 容：「みる・考える・話す・聴く」ことを繰り返しながら、根拠に基づく思考や話す力、聞く力を醸成する

備 考：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校での取材はご遠慮ください

### ■連携協定締結式 ※ぜひ取材をご検討ください

日 時：令和4年5月25日（水）、午前10時30分から

場 所：茨木市役所南館3階 防災会議室（茨木市駅前三丁目8-13）

出席者：茨木市長 福岡洋一、京都芸術大学 吉川左紀子学長 ほか



### 【本件に関する問合せ先】

授業に関すること：学校教育部学校教育推進課長 電話：072-620-1683

協定締結に関すること：企画財政部政策企画課長 電話：072-620-1605